

高速道路もトラックも無かった時代に
本当にあった
幻の魚の飛脚ルート・60KM!

それが備中とと道トレイル

そのトレイルが
「日本ユネスコ協会連盟 プロジェクト未来遺産2023」
に登録されました。

これを受けて

「備中とと道トレイル・サミット」
が開催されます。奮ってご参加を!!

日時 7月6日(土) 13:30～16:00

場所 岡山県高梁市成羽

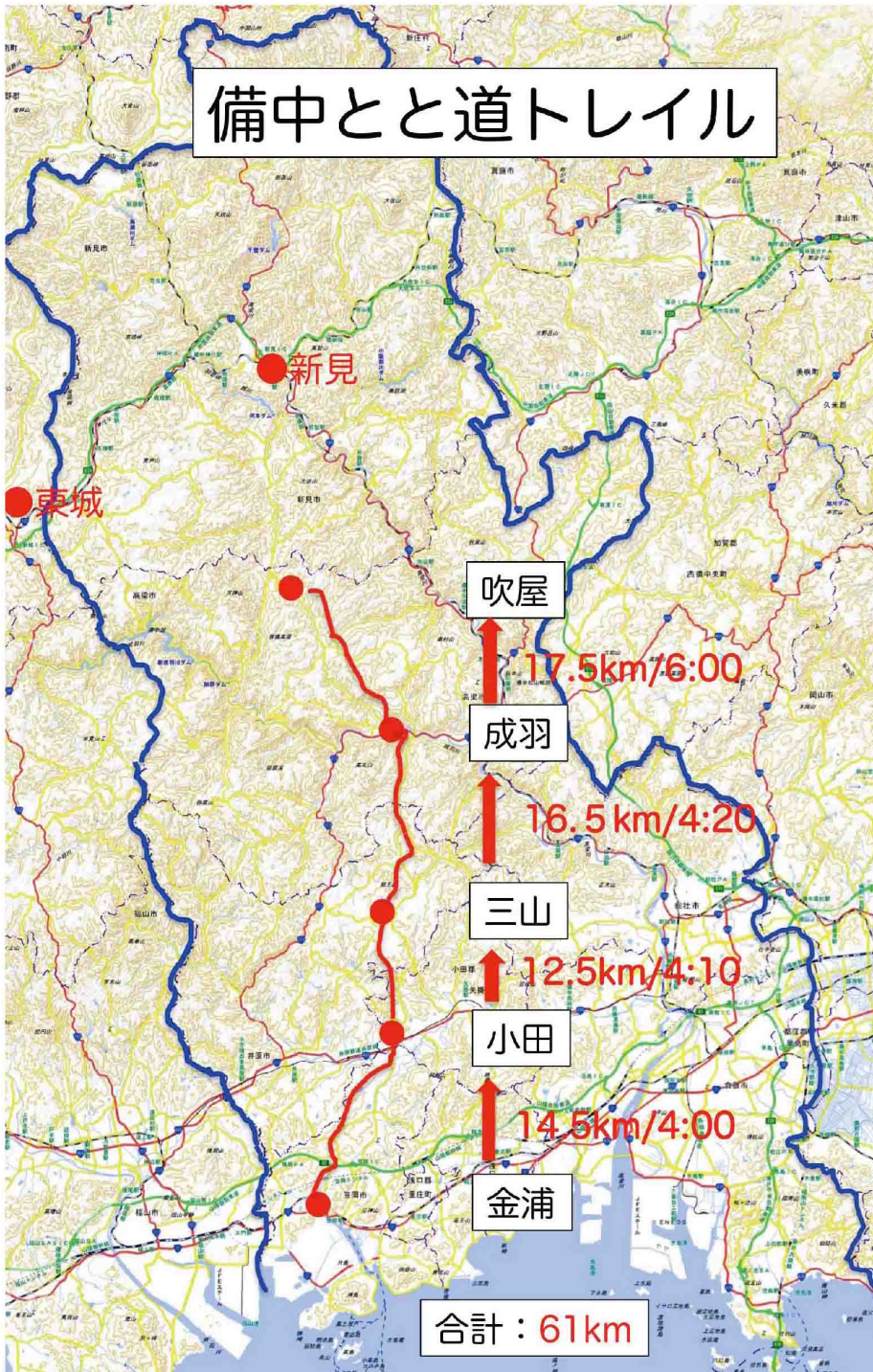
たのこまるプラザ「伊藤記念ホール」(Tel 0866-42-4325/観光案内所)

開催概要

1. 「日本ユネスコ協会連盟 プロジェクト未来遺産 2023」登録証伝達式
(13:30-14:15)
とと道沿道首長参加予定
2. 特別講演(14:30-16:00) 予定
神崎 宣武氏(民俗学者)
:「吉備高原の風土と歴史」(仮題)
西山 徳明氏(北海道大学観光学高等研究センター教授)
:「備中とと道トレイル」の生み出した新たな価値とその未来



詳細は 備中とと道トレイル推進協議会 事務局へ 080-3390-6935



金浦魚市場で夕方競り落とされた鮮魚は夜の9時に出発。丸い竹籠に入れて天秤棒の両端に吊るされた魚荷は40kgほどもあった。5～6人が一組となって、小田、三山、成羽を經由、途中6ヶ所ほどの中継所で次の運送人へと引継ぎながら運ばれ、都合12時間、翌朝の9時には吹屋に到着した。

吉備高原の山坂をいとわず、ほぼ一直線に北上する厳しいルートで、魚仲仕の賃金は一般の日雇い賃金の5倍以上（明治25年頃、日雇い賃金4銭に対し20銭、三山から成羽へは26銭と3合の米代）もあったといわれる。

この道、当時は多くの人に踏み固められていつでも歩けた。しかし、一旦ヒトから見放された今はそう簡単ではない。当協議会では役員の平均年齢からあと4年は毎年11月中に全コースの草刈りを実施することで合議している。ということで、歩くのは12～5月の冬から春をお勧めしたい（毎年12～5月には協議会主催で会員参加のウォーキング大会を開催予定）。